

2023 年度 京都教育大学附属特別支援学校 学校評価

自己評価区分	
A	十分達成できた
B	概ね達成できた
C	十分には達成できなかった
D	ほとんど達成できなかった

① 教育活動その他の学校運営に関する事項（学校教育法に基づく評価）

本年度の 重点目標	具体的な取組内容	自己点検評価	自己 評価 区分	学校関係者評価	改善策
(1) 今までの教育実践の根底にある教育観、発達観（学び、育ち）を大切にしつつ、現在の課題に取り組み、目指す教育の実践を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ①学校教育目標「生活意欲に富む、個性豊かな社会人を育成する」を見据えつつ、児童生徒の目標に迫る学習内容や支援方法を検討して授業づくりを行う。 ②児童生徒の学習の成果を的確に捉え、授業及び教育課程の改善につなげる ③児童生徒が I C T 機器を積極的に活用できるように、教職員の機器についての学びを深める。 				
(2) 本校の学習環境・施設をいかした本校らしさのある取組や、身につけた力を地域社会で発揮することができる学習を展開し、地域との連携を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ①「かめっこクラブ」の畑の作物収穫等、の場を提供し子育て支援を継続していくことで、藤城社会福祉協議会や藤城自治会連合と連携し児童生徒が活動できる場を広げる。 ②地域の特別支援学級や特別支援学校との交流及び共同学習等で、児童生徒が身につけた力を発揮することができる取組を行う。 ③大学や地域の施設などで、実際の活動に準じた学習を行う。 				
(3) 研究・研修、特別支援教育の教員養成等における大学との連携において、教育実践における連携を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ①発達障害学科教員及び他学科教員と協同し、本校の教育実践の推進を図る。 				
(4) 保護者との連携を深め、学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ①学校の取組が保護者により伝わるように、ホームページ等の情報発信を多くする。 ②保護者の「朝の声かけ運動（通学路の見守り）」等、保護者と連携しながら児童生徒の活動を支え、学校運営を進める。 				

2023年度 京都教育大学附属特別支援学校 学校評価

自己評価区分	
A	十分達成できた
B	概ね達成できた
C	十分には達成できなかった
D	ほとんど達成できなかった

② 附属学校園の機能向上に関する事項

本年度の重点目標	具体的な取組内容	自己点検評価	自己評価区分	学校関係者評価	改善策
教育研究活動の成果を公表する。	・教育創生リージョナルセンター機構、京都府・市教育委員会の支援を受け、公開研究会を実施する。				
大学と附属学校園とが連携した研究を実施する。	・大学と附属学校園とが連携した共同研究「教育研究改革・改善プロジェクト」を進める。				
総合教育臨床センター学びサポート室と連携する。	・総合教育臨床センター学びサポート室共同実践者を主にしながら、教職員のスキルアップにつなげる目的をもって参画する。				
業務改善及び教職員の働き方に関する取組を推進する。	・校務、会議の効率化・情報化とともに教職員の役割分担を見直し、学校行事等の内容を検討し、学校業務の適正化を図る。				